

R. S. C. D. S.

東京ブランチレター

No. 16

R. S. C. D. S 東京ブランチ

第5回合宿研修会 開催要項

1. 主 旨 RSCDS東京ブランチは創立8年を迎え会員数300名余となり、この時期開催の東京ブランチ主催の合宿研修会も今回で5回を数えました。今回も、会員およびグループ相互の親睦・交流を深めるとともにダンスを正確に楽しく踊るための技術向上を目的とし、3コースのクラスによる合宿研修会を企画いたします。お誘い合わせの上ご参加ください。
 2. 主 催 : R. S. C. D. S. 東京ブランチ
 3. 期 日 : 1992年2月14日(金) 17:00~16日(日) 15:00
 4. 会 場 : 日野ラ・サール研修所
(東京都日野市日野本町3-3-2 ☎0425-81-2523)
 5. 内 容 : ・基本ステップ、フォーメーション
・特徴のあるダンス
・パーティー等
 6. 運営・指導 : 東京ブランチ委員およびRSCDS公認指導者等
 7. 参加費 : 20,000円(二泊六食 研修費含)
 8. 定 員 : 80名(予定)
 9. 携 帯 品 : ダンス関連のもの、洗面用具、ねまき、筆記用具等
 10. 申込み方法 : 同封の振替用紙をご利用の上、参加費を
・郵便振替口座 東京6-64023 「RSCDS東京ブランチ」宛に払い込んでください。
- ★ なお、郵便振替は申込み書も兼ねておりますので、振替用紙の通信欄に
- ◎『コース別』を
- また、複数人分まとめて申込みをする場合には、
- ◎『参加者それぞれの氏名、住所、SCD経験年数、コース別』を必ず記入してください。

11. 日程予定:

9 12 13 15 17 18:30 21 23

2/14	_____					受付・夕食等	パーティ	風呂等
2/15	起床	朝食	開会	実技	昼食	実技	夕食等	PARTY
2/16	起床	朝食	実技	昼食	実技	_____		

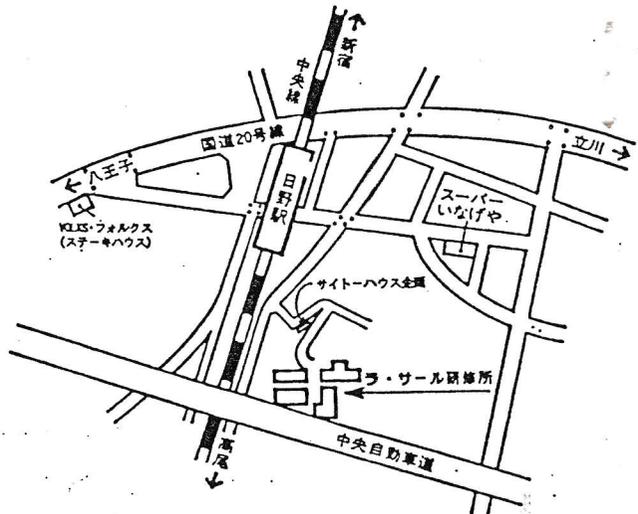
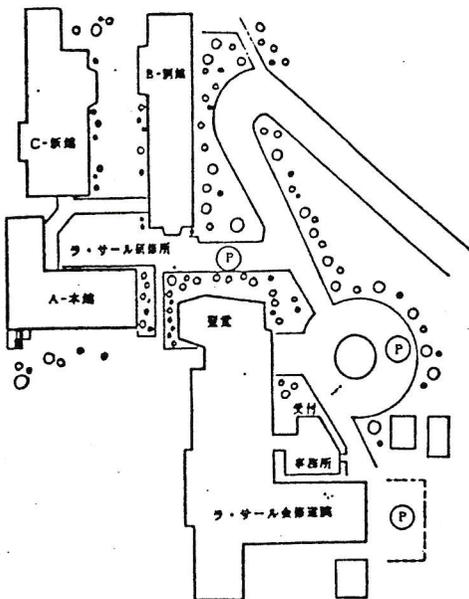
今回の合宿研修会は、2日目および3日目の午前中が、以下の3コースの選択性となっています。従いまして、同封の郵便振替用紙の通信欄に希望のコースを○で囲み、締切日12月27日(金)までに振替(申込み)手続きをお願いします。

なお、基本的に希望にそった形でクラス分けをしますが、希望にそえない場合はご了承願います。クラス分けは初日の受付時に発表しますので、ご自身のクラスを確認ください。

・Aコース (初心者のためのクラス)

・Bコース (中級者以上ののための一般クラス)

・Cコース (中・上級者のためのベーシッククラス)



JR 日野駅下車、南側口より徒歩5分。
(駐車場は狭いので電車でおいで下さい。)

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

平成3年10月18,19,20日の三日間日本フォークダンス連盟創立35周年の記念行事が行われ、その中のスコティッシュコースを担当して欲しい-----との連盟の要請で、東京ブランチでは、カナダから公認指導者のジム&メリー・マレーご夫妻をお招きすることに決め記念行事の一端を担った。

残念なことにご夫君のジム、マレー氏は仕事の調整がつかず来日出来なかったが、その分メリー・マレーさんは頑張ってお下さり、多数のフォークダンサーやブランチメンバーを楽しませて下さった。以下その報告です。



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

日本フォークダンス連盟35周年記念行事でのスコティッシュ奮戦記



東京ブランチ・スタッフ：岩崎 誠司



さる10月18日(金)～20日(日)の日本フォークダンス連盟35周年記念行事で東京ブランチはスコティッシュの分化会を担当しました。今回のスコティッシュ・パートと分化会クラスのためにカナダ/バンクーバーからR.S.C.D.S公認教師のメリー・マレー(Mrs. Mary Murray)をご招待し、そのメインを担当していただきました。

初日の18日は、全体の記念パーティを千駄ヶ谷の東京体育館のメインフロアを使って行い、その中で1時間スコティッシュを全員で踊るパートを担当しました。ブランチからモデルセットを出し、一度踊ってみせて次に全員で踊るという形式でパーティが進められました。進行は、松橋さんとメリー・マレーさん。モデルセットは、2台のテレビカメラで会場に設置されているパノラマビジョンに中継され、フロアの全員がモデルセットの動きを見ることができるようになっていました。それまで、一般フォークダンスやスクエア・ダンスのパートがあり、それらの人達がはたしてスコティッシュをどこまで踊るか、何人フロアに出てきてくれるか実のところ心配でしたが、あの広いメインフロア一杯にセットができ、準備した曲(6曲)もスムーズにこなし、会場全体がその時間スコティッシュ一色になりました。メリー・マレーさんも、まず人数でびっくりし、次に進行が思ったよりもスムーズに進んでさらにびっくり。カナダでもこれ程の人数で踊ることはほとんどないし、カナダよりずっとレベルが高いと絶賛すること大でした。日本初めてのメリー・マレーさんにとって予想以上のスケールの大きさと皆さんの出来の良さ(?)に多に満足気でした。モデルセットのメンバーは、曲のデモだけでなく、実際全員が踊っている時間も一貫して踊りつづけたことになり、あの熱気の中で気が付いたら汗だくになっていました。ご苦労さま。

翌19日と20日の2日間は、代々木のオリンピック・センターで各分化会に別れてのクラスとなりました。スコティッシュのクラスは、メリー・マレーさんの講習を中心に午

前午後とも東京ランチのスタッフメンバーでクラスを運営しました。メリー・マレーさんの講習時間はさすがに大勢の人が集まり、そのステップの見事さやクラスそのものの楽しさで多に盛り上がりました。教室がセットでぎっしりの状態でしたが、講習もスムーズに進み、さすがサマースクールの常任講師である実力がさりげなく発揮されていたと思います。2日間通してスコティッシュにクラスに参加していただいた人々も多く、スコティッシュを目的に参加したフォークダンサーも目立ちました。休憩の時間ともなれば、もうメリー・マレーさんを囲んでの写真撮影が目白押し。当然だと思いますが、彼女の人気たるや始めての人でもファンになってしまう人間的魅力があるんですね。ということで、一途にメリー・マレーさんのがんばりに負うところの多かった日連35周年記念行事でしたが、まずまず大成功といえます。

今回の分代会や初日の全体パーティでのパート運営で一般フォークダンサーへさらにスコティッシュの楽しさ、魅力をアピールできたと思いますし、またスコティッシュへの関心も高いことを十分に認識しました。今後もRSCDSの基本方針にそった形での事業展開の中で、より多くの人と踊りを楽しむという基本的な部分の充実に最善を尽くしていきたいと思いました。

MARY MURRAY WEEKEND SCHOOL の報告

1991年10月26日、27日に日野市のラ・サール研修所で標記 WEEKEND SCHOOL が行なわれました。日野ラ・サール研修所は中央線日野駅から歩いて5分と立地もよく、また周囲に住宅がないために夜遅くの音楽も他の迷惑にならないなど、ダンスの合宿に最適なところ です。今回の WEEKEND SCHOOL で残念なことが三つありました。一つめは、日程が他の行事と重なって参加できない人がいたこと。二つめは、研修所のシェフが所用で、食事が仕出し弁当になってしまったこと。そして最後は、天気が悪かったことです。そんななかで WEEKEND SCHOOL が始まりました。

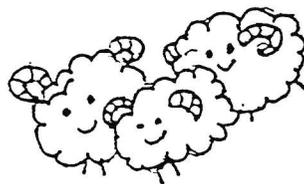
MARY MURRAYさんは、松橋さん、岩崎さんによる事前の力の入った大推薦に 応えてか、前週からの疲れも見せずにシャープな指導をしてくれました。先生が素晴らしければ生徒は自然に成長します。一日め、曲目は新しいものが多く、初耳のものもありましたが、大変スムーズに消化できました。

今回の WEEKEND SCHOOL でちょっと変わったのは PARTY と懇親会です。ひとまとめに してしまったのです。研修所のご協力もあり、HALL と会議室で20時から24時までたっぷり と踊り、語り、そして適度の飲食を堪能しました。途中で大撮影大会などのハプニング もあって大変賑やかなうちに翌日になりました。その後も各所ではミーティングがあった ようですが。

その影響も若干残る二日め、なんと STRATHSPEY, REEL AND HALF TULLOCH でしごかれ ましたが、その他は比較的分かりやすい曲で、心優しい配慮が感じられました。このよう にして楽しい二日めもたちまち過ぎ、終わるころには雨も小降りになってくれました。

講習曲目	NEW SCOTIA QUADRILLE	THE LAIRD OF ATHERTON
	CHRYSANTHEMUM	MAUREEN'S FANCY
	SCOTTISH BARN DANCE	MAMIE'S JIG
	STRATHSPEY, REEL AND HALF TULLOCH	SOCIETY PIPER
	CASTLE IN THE AIR	ROTHESAY RANT
	THE BALMORAL STRATHSPEY	THE HIGHLANDMAN'S UMBRELLA

*TEACHER によって教え方のニュアンスが微妙に違うことがあります。今回、それについて聞いてみましたが、やはり、人と時代によって揺れはあるようでした。私たちはあまり細かい違いにとらわれず、大きな共通の様式を目指したいものです。 (小幡 記)



***** A.G.M. 報告 *****

今年の本部の総会 (A. G. M) は11月1日 (金) PM8:00~2日 (土) PM11:30 の2日間、スコットランドのDUNDEE (ダンディー) で行われた。東京ブランチから、セクレタリーの松橋順子さんとデリゲーターをお願いしている篤子クレメントさんの二人が出席した。申し込み受付、宿泊、会場の設営 (THE NORTHERN COLLEGE OF EDUCATION) TEA TIME. SUPPER 等のサービスは DUNDEE BRANCH のメンバーが総出でて下さった。又11月16日に行われた、EXECUTIVE COUNCIL の MEETING には篤子クレメントさんが、当ブランチ代表で引き続き出席しました。以下その報告です。

土曜日の朝は、9時30分のOpen Forumでstartした。

OPEN FORUM:

Q1. West Lothian Branch Mr. Carswell: Subscription Book System について見直し、これについて真剣に討論すべき - Publications & Research Committeeで討議された結果これを続けることに一致。また、費用節約のために Bookの代わりに Leaflet にしたら、及び Book の Music を省いたら・・・等の案が提出されたが両者共 Executive 及び 昨年の A.G.M. で討議され Number 付きの Book のみ、又、音楽が必要との事から今まで通り音楽付きにするという意見に過半数を得て決定されている。

(注釈) Mr Carswell としては、Subscription Book System について考え直して欲しい、つまりこのシステムの為踊りの数が増加し今までの古いダンスが忘れられ新しいダンス、難しいダンスに走りScotlandで一般に踊られている踊りから離れる傾向にあることを杞憂し、これで良いのか・・・という疑問を投げかけたかったのだと思う。

Q2 Dundee Branch : Societyの経済的危機について、Life 及び Long Term Member への年会誌及びBookは、既にその収めた金額を上回っておりその分の赤字が大きい。これらの member に寄付を募ってはどうか - 寄付は強制できない、寄付してもBranch レベルで止まってしまい本部に届いていないことがある、反対意見としては、これらの Member は 通常 Society に貢献している。

Q3 London Branch : 会費値上げ前に、Societyはもっと会員維持に 努力すべき - レコード等の会員割引、Classのみでなく Dance 等も増やす、Affiliated Group Member 達への会員勧誘、等。又、会費値上げが Scotland では、問題である。何故なら、Scotland では R. S. C. D. S. の会員にならなくても踊る機会はあるから。本部でも全国の小中学校に呼びかけ11月29日に "School Day of dance" を企画。又、教師を派遣するなどして普及に努力している。

Q4 Manchester Branch : Open Forum で討議されたことがどのように生かされているか? - Publications & Research Committee からは、その結果 30 Popular Scottish Country Dances の本とテープが出された。Summer School は、来年日曜から日曜で開催される。等など各委員会に持ち帰られて討論されている。又、Executive Council はこれらの議題が各委員会で話されているか チェック すべきである。Open Forum 参加者も Branch に持ち帰って "News Letter" 等に報告するなり Branch の A. G. M. で報告、討議するなりすべき。Branch 代表者が Open Forum に参加していない場合もあるので本部会報に報告する。

Open Forum の後、Dr. MacFadyen と London の Mrs. Mery Stoker により 2 会場に別れて Class が持たれた。

A. G. M. (2:30 - 5:15)

Mansfield 男爵欠席により Mr. Aitkenhead が議長を務めた。Apologies, Queen からの Message, 昨年 of A. G. M. の議事録(今年の本部会誌に転載)の承認、名誉副会長の承認が行われた後、新 Charman が単一推薦により Miss Wilma Millar に決まった。Mr. Aitkenhead の体調が優れないためここで、Charman の Chain が Mr. Aitkenhead から Miss Millar の首に掛けられ この後 Miss Millar の進行により議事が進行された。

年次報告が Mrs. Moor により行われ、会計報告が Mr. Taylor が入院中の為 Mr. Turnbull により行われ承認された。詳細は本部会誌参照。

RESOLUTIONS:

a) Executive Council からの提案 "1992年7月1日 又は、Branch の会計年度 1992年の開始時点より 年会費を£10 に値上げする。" - に対して各 Branch から六種類の訂正が提出された。この内3つの Branch からだされた£7値上げが 139 対 51 で過半数を確保し決議された。

b) Birmingham Branch 提出の "1992年7月1日 又は、1992 年の Branch 会計年度 開始
時点より Joint 年会員を設け この場合夫婦会員は会費の 30% 引きとする。但し、本部
会誌、及び Book は 2人で 1冊づつとする。 これに対し夫婦を一家庭の 2人とする等、2
つの訂正案がだされたが、いずれも否決された。

c) Birmingham Branch による (b) の条件の Long Term Member が提出されていたが (b)
が否決された事によりこの提案は Birmingham Branch により取り下げられた。

d) Stirling Branch から "Executive Council は次期会議で小委員会を設け Branch から
提出される Council の議会費用を削減するための案を討議し来年の A. G. M. にこれを
報告する。" は、過半数の賛同を得て遂行される事になった。

この後、功労者賞の授与、来年度の A. G. M. が Aberdeen で 11月 7日に開催される事の
承認がされ Dundee Branch へ A. G. M. 主催の功に対して感謝が述べられ 5:15 閉会され
た。

(注釈) 本部経済危機が大きな問題となっている。会費 (£48,996 Life Memberからの寄
付含む) より本部スタッフの給料 (£51,489)の方が上回る。又、本部会誌 (£21,865)、
会議費 (£10,991 の内 約£8,000が Executive Council Meeting 費用)に使用。このよ
うな理由から年会費値上げ Executive Council 費用削減案などが出された。

Executive Council Meeting

16th November 1991

- 議長挨拶 新Chairman がMember 及び新副Chairman - Mr. George Lawson を
歓迎した。
Executive CouncilのMember は、RSCDS本部でどのような事が行
われているかを会員に伝え、連帯を計ると共に相互の連絡を密にしてい
く事を希望された。
- 議題2 b). Honorary Archivist (資料保存担当) の投票数が非常に近かったた
め、再度数え直された。
新Honorary Archivist は Miss Frances Goodon
c) 各委員会の投票結果及びConvener が選ばれた (★印)
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| General Purposes | Publications & Research |
| ★Chairman | ★Mr. W. Clement |
| Miss Christine Traynor | Mr. Robert Mackay |
| Miss Isakle Paton | Mrs. Johan Maclean |
| Miss Frances Gordon | Mr. Thomas Steele |
| Miss Eliqabesh Ferguson | Miss Margaret Brander |
| Mrs. Ross Colwell | |
| Mr. Graham Stephens | Finance |
| Mrs. Christine Munro | ★Mr. Richard Turnbull |
| Mrs. Margaret Shaw | Miss Marjorie Duffield |
| Mr. Anfhony Dewdney | Mr. John Douglas |
| | Mr. Dawid Ross |
| | Mr. Keith Stacey |
| | Mr. Bruce Frager |

Summer School
★Dr. A. Facfadyen(Director)
Mrs. Linda Gaul
Mr. Jim Rae
Miss Dorothy Hamilton
Mrs. Susan Nedderman

Examinations
★Mrs. Mina Corson
Mrs. Norah Dunn
Mr. William Hamilton
Mr. Stamley Wilkie
Mr. George Mechan

☆ 通常よりも委員会のメンバーの変動が多いのは、新規則 — 委員は最高5年までしか同じ委員会に務めることができない — 導入の為である。

議題5

各委員会の議事報告と質疑応答

General Purposes : Chairman は来年度の本部年会誌の費用削減の為に各Branch の報告を省くことにより縮小することを報告した。

Finance : 出費に対する削減の為に議論が活発に行われた。

Examinations : 費用が多大にかかるが、海外へのExaminers及びTeachers の派遣は縮小しないことに合意したことを報告。

Publications & Research : 本部へ送られた80以上のDanceを踊り、そのうち16の踊りを1994年出版のBook の候補として、又、5つのDanceをChildren Book の候補として残した。今後送られるDanceについては、返送するか又は希望があれば1998年のBook の可能性候補として保存する。1996年はPocket editionの予定である。

Summer School : 来年のSummer School は日曜～日曜で通常より1週間早く1992年7月12日～8月9日までである。

議題11

Business From A. G. M

Executive Council Meetingの費用削減案考慮の為に小委員会が決定された。推薦により委員はChairman, Vice - Chairman の他:

Mr. G. Reinstein (Convener)

Mr. M. Brown

Mr. R. Twrnbull

Miss L. Martin

Miss A. Mann

※ もし東京Branch で1回当たり£4,000かかるExecutive Council Meetingの費用を削減する良い案があればご連絡下さい。以下に案として

- 1) Branch がRepresentative の経費を負担する。
- 2) Branch とH. Q. で半々にRepresentative の経費を負担する。
- 3) Representative をBranch ごととせず地域(区域)ごととする。
- 4) (?)人以上の会員を持つBranch のみRepresentative を送れる。
- 5) その他の案

Meetingは議長への感謝の言葉で閉会した。

注釈) 昨年の本部会報は、10頁超過した為(Branch report の最高字数300字)特別なバインディングが必要となり、£5,000余分にかかった。又、期限に間に合わなかったものがあり、両方の理由から£3,000の郵送料が予定以上に必要となった為、合計£8,000余分の出費となった。

その他

- 1) Affiliated Groupの連絡先のTEL. No. を載せる案に過半数の賛成を得た。
- 2) 音楽付きのLeafletを出版し、ある程度まとまったところでPocket edition としてまとめるという案は否決された。



華 お め で と う 華



今年のサマースクールのトレーニングコースで PRELIMINARY (初級) には2人
FULL CERTIFICATE (上級) には3人の計5人がトレーニングとテストを受け4人
が合格…と本部から報告がありました。 ますますのご精進とご活躍を期待して
心から おめでとう の拍手を送ります。

お二人の方に感想を寄せて頂きました。

S u m m e r S c h o o l 1 9 9 1

に参加して

小川義忠

・はじめに

1991年のR. S. C. D. S Summer School Teacher's Certificate Examination Class に
参加し、試験に合格したことを報告するとともに、この機会を与えてくださった関係
者の皆様に深く感謝したいと思います。技術面の詳細はいずれまとめる予定の報告書
にのせることにし、ここでは主に感想を書くことにします。

・クラスのこと

Teacher はMrs. Burnell。初対面でしたが、ちょっとバンカラふうで親しみやすく、
でもやっぱり威厳とPOWER があって、よくクラスをまとめてくださいました。

Pianist は2年前と同じMiss Alice Mann で、ほっとしました。クラスは総勢14人、
そのうち8人はPreliminary Exam. の同級生でなつかしく、元気な再会を喜び合いま
した。しかし、2年の月日は恐ろしいもので、ピカピカの若者やLADYが落ち着い
て貫禄がでてきたり、少し太くなっているのがはっきり分かるのです。(私も同様で
したので人のことをとやかく言える立場ではなかったのですが・・・)

クラスにおいて、やはり英語のコミュニケーションには苦労があったのですが、知
った仲間でしたので「Teacher が今言ったことは何?」とか、「宿題の課題は?」と
か聞き回って教えてもらったりして、ずいぶん助けてもらいました。意見を述べあっ
たり、はげましあったり、クラスの仲間というのは本当に頼りになります。

・試験のこと

筆記試験では、「Society と Branch の役割の違いについて述べよ」というのがあ
りました。ブランチ役員の経験と知識がストレートに役に立って喜びました。

Dancing の試験ではちょっと失敗をして(恥ずかしくてここでは言えませんが)、
次の日にスタッフに逢うたびに「YOSHI(私のこと)はDancing の試験で New Danceを
創ったんだって?」と、ひやかされてしまいました。

Teachingの課題曲は、Major Ian Stewart(J-32-3C, Book35) でした。あの有名なMr

John Drewry の作ったDance で、ちょっとくせが在るのです。そこで、通りがかったその本人に、「明日の試験であなたの曲を教えることになり、とても光栄で嬉しく思います。」とお話したら、「分からないことがあったら、遠慮しないでいつでも部屋にきなさい。君のためになんでも教えてあげよう。」と優しく言ってくださいました。

私は、もう感激してすぐに予習をして、2時間後には彼の部屋でレッスンを受けていました。これは本当にラッキーなことだったと思います。教え方はともかくとしても、なんといっても、世の中で私が彼の次に課題曲を良く知っていたことになるのですから・・・。結果はうまくいきました。Examination の生徒にボランティアで、あのハワイランチのMrs Brandon がおられたのですが、(後で本人から聞いて知ったのです。試験の時に気が付かなくて良かったと、いま思っています。)その彼女が「あの踊り方は全くそのとおりなのだけど、どこで知ったの？」と尋ねてくださり、種あかしをしたのです。

試験を終えた後の面接では、試験官のMrs. Dannから「楽しいクラスが持てましたね。あなたも楽しんでいたでしょう。」と言われたときには、これまでの頑張りが一気にむくわれたと思いました。そうです。私のめざしていたものはこれなのでした。憧れのSt. Andrewsで自分の持てるすべてを出し、そして私の理解するSCDを表現することができたことに感激し、あとは言葉になりませんでした。

• RSCDS のTeacher として

これからやっていけるといいなと、思っていることを述べたいと思います。

1)あらゆる場所でSCDの喜びを伝え、分かち合いたいと思います。

RSCDSのSpirit, Heart, Techniqueを伝えひろめること。

2)効果的で楽しい指導方法を場所に応じて工夫して実施し、それをひろめること

3)Teacher を目指す人のお手伝いをする事。

とは言ってもTeacher になったばかりで、まだまだ未熟であります。今後皆さんとともに勉強を積み重ねていき、SCDを楽しみながら人と人とが高い次元で心を通じあえる世界をひろげていけることができると願っています。

• さいごに

今回のTeacher's Certificate の受験に際しては、東京ランチ及び会員の皆様の大きなご支援を得ました。合宿等で指導の機会を与えて下さったこと、ランチの運営の経験をさせて頂いたこと、RSCDSや試験の情報を頂いたり、また諸先輩のTeacher から助言をいただいたこと、会員の皆様のご声援など、現地で大きなささえになりました。深く感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。

また、RSCDSA. G. の関西ホワイトヘザーダンサーズの皆様には快く指導練習の場を提供していただきました。直接指導していただいた岡田昌子先生、そして東京SBB Cの皆様には大変お世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。

Teachers Certification

5年前に初めて訪れた時には、もう二度と来る事は出来ないと思っていたSt.Andrewsに5年後の今年再び戻る事が出来ました。それも、5年前には思いもしなかったTeachers Certificateを受けに（ダンナ様を放り出して）

何より嬉しかった事は、人々が私を覚えて居てくれたことでした。

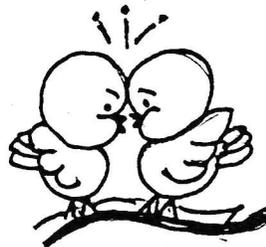
日本へ来てくださった事のあるSocietyの先生方や、ピアニストの方々についてはある程度予想していた事でしたが、前に訪れた時のクラスメートや先生、その時どこかのパーティーで知りあった人等、たくさんの方が私を覚えていてくださり“Shoko!”と呼び掛けて下さった事に大変感激しました。（同様に沢山の人が夫の名を覚えていて、来ていないの？と聞くのが困りました）

そのような中でニュージーランド人ー1人、アメリカ人ー1人、ドイツ人ー1人、スコットランド人ー5人、イングランド人ー4人という構成（男性3人、女性11人）でTeacters Certification Class は始まりました。

まず初日の午前中は、クラスメートのあまりに堂々とした先生ぶりに圧倒され、ショックを受けました。その堂々とした態度は本人のTeachingの場だけでなく、お互いの踊り方や教え方に関してのディスカッションで意見を述べる際も変わりません。必ずしも皆が皆そういう態度でなかったのかもしれませんが、その時の私たちにとっては受けた印象と自分達の現状との間に大変なギャップを感じ、不安になりました。今から思えば、他の皆も大なり小なり同じような事を感じていたのかもしれませんが。

クラスそのものは、ダンシングをすこしずつ採りいれながら、どんどんTeachingをさせていくという形式でした。特に度肝を抜かれたのは、初日のクラスの冒頭に、まずクラスの半数にSkip Change Of Stepを踏ませた後、すぐに見ていたメンバーから一名指名して、“今の皆のステップで直すべきところを指摘し、直し、もう一度踊らせなさい。”と言われた事です。最初に指名された人は、全く動じる風もなく、むしろ先生より教師然とした様子でTeachingをして終わりました。そこで指名されたらどうしよう、最初の人のように出来ないし、英語で言うとしたら-----などと思い始めた途端に私が指名されて、おもわず言葉につまったりして、.....という風に始まったのです。

少しずつクラスの仲間が親しくなり、それにつれ”言葉の面で困った事、大変なことがあったらいつでも聞いてね。私の部屋は0番だから。”と多くの人に言われたり、逆に”今、先生なんていったの？”と聞かれたりし、嬉しかったり、驚いたりという日々が過ぎていきました。



もう一つ感銘を受けた事がありました。 最初の数時間を過ごただけで、クラスの内のかかりの人はすでに大変優秀な教師であるという事がわかった反面、私達はそのあまりに堂々とした態度に圧倒されました。 なにしろこちは堂々どころか、声が小さい、まだ小さい、という注意をうけていたのです。ところが時間がたつにつれ、実際はそういう教師らしい人程、教える事に長けているだけでなく、ダンシングも旨く、クラスの皆からも人望があり、思いやり深く心遣いも行き届いたあらゆる面で優れた人だという事がわかったのです。 私達にとって「教師のあるべき姿とは」、という事をあらためて考えさせてくれた出来事でした。

クラスメートの内、私達女性陣10名(1名だけは子供連れのため外にフラットをかきりていました。) なんと乳母まで連れて来ているといううらやましいかぎりの人でした。 私の部屋は一階の一番奥にありました。そこは最後のガラス張りの戸をあけると私達の部屋しか無いという場所で、一本の廊下をはさんで10名の部屋が向かい有ってました。 これはクラスが始まる前には予想もしなかった事でした。 クラスで Teaching の課題が与えられるようになると、皆自分のダンスをマスターした時点で廊下に出て、(ヘルプが欲しいんだけど誰かいない?) と声をかけます。そうすると皆廊下に出てきて、「必要なのは 2couples? 3couples? 」などと聞いて、必要な人数を揃えて、足りない時は外のクラスにいるそれぞれの友達までつれてきたりします。そこで皆でその課題曲を踊り、どこが Teaching Point になるかを指摘しあったりしました。

英国人が大好きなお茶の時間にしても、特に決まった時間という訳でなく、食事が終わった時、クラスが終わった時、勉強に疲れた時等、何度もその奥まった誰かの部屋で数人で集まって世間話やクラスの話しや、時には勉強の話しをしながらお茶をのみました。このような事の一つひとつ、特にその自然さが、余裕を失いがちな私達にとって、スコティッシュダンスとは何か、という事をもう一度思い起こさせてくれたという気がします。 私が試験に合格出来たのは、たまたま幸運が重なった為だと思っております。 というのは、Teachers Certificate の試験というのは Preliminary Examとは大変異なった試験のようにかんじたからです。

私が今回感じたのは、『Preliminary Exam』は、Examination Class がはじまった時点で、例えば『1』しか持っていない素養や知識や経験を、Class を通じて『10』二広げ、それを試験で『10』答えてみせる試験であるという事。

それに対して、『Teachers Certificate』の時には、既に『100』以上持っている筈の知識や経験の中から『10』を見せる試験であるという事。

つまり『学びに行く』という姿勢ではなくて『どれくらい沢山、どうゆう風に自分の中に蓄積しているかを見せて認めて貰う』という姿勢であり、クラスも『先生が教える』という形というよりも『お互いに知りあい議論しあい、学びあう』という形をとってお

り、トレーニングクラスの先生は『確認する、正しい方向に導く』という役割であるという事。ダンシングに関する指導も Preliminary の時の方がずっと多かったように感じ、Teachers Certificate では、ダンシングは出来上がっている前提でカリキュラムが組まれているように感じました。特に経験というものは教師には不可欠であり、経験の深さが、どんな場合にも対応できる力を授けてくれる、と実感しましたし、ダンシングのみならず、スコットランドの音楽、文化すべてに関して深い知識が必要だという事を感じました。特にこの点に関しては、スコットランドないしは英国に生まれ育ったわけでない私達の場合には特に意識しかいかぎり難しい事ですが。

スコティッシュダンスには国境はありません。世界中の言葉の異なる人々とも一緒に同じダンスを踊る事ができます。RSCDS サマースクールのクラスでもおなじです。ダンスは共通語ですし、試験に関してもボディランゲージは有効です。しかし今回私が強く感じたのは、特に試験のトレーニングクラスの場合、クラスでの先生の言葉・クラスメートとのディスカッションの言葉の中に、受験者や教師を志す立場の者にとって珠玉のような言葉がそこそこにあるということ、その言葉を吸収する事こそトレーニングクラスを受けにきている一番大事な意味とも言えるのではないかということ。



Pictured are Japanese girls (from left) Keiko Sakuma, Chu Akinoto, Shoko Okunura and Harume Naking who competed in the Highland dancing events.

その言葉をもっともっと英語国民が出来ているように吸収出来たら素晴らしいのだが、
という事でした。 ともあれ、そのようにしてとても長いように感じた二週間は終わりました。 その二週間の内には、St.Andrews の Highland Games の Highland Dance の競技に参加し、翌日の地元の新聞に写真と名前が載ったり、BBCスコットランドのラジオ放送のインタビューを受けたり、マンスフィールド伯爵との夕食会のあとに呼ばれ、じきじきに言葉をかかわす機会を頂いたりしました。 クラスの仲間の一人が数週間前に受けた手術の傷口が開いてしまい替わりに皆で代わる代わるダンシング試験の彼女のパートを踊ったり、例の乳母を連れてきているクラスメートの子供がみずぼうそうになって騒ぎになったりと、振り返ってみると様々な事がありました。 六十周年の記念行事だからという事で開かれたガーデンパーティーやケイリーでの日本人による日本舞踊は大好評でしたし、勉強の合間に色々な行事を経験できなした。

私の受験にあたり、入念なご指導をくださった先生方、及び多くの励ましを下された方々に心からお礼申し上げます。 本当に有り難うございました。

奥村尚子